

Art Sightama

さいたま国際芸術祭 2020

～参加アーティストの第1弾を発表します～

テーマ

花 / flower

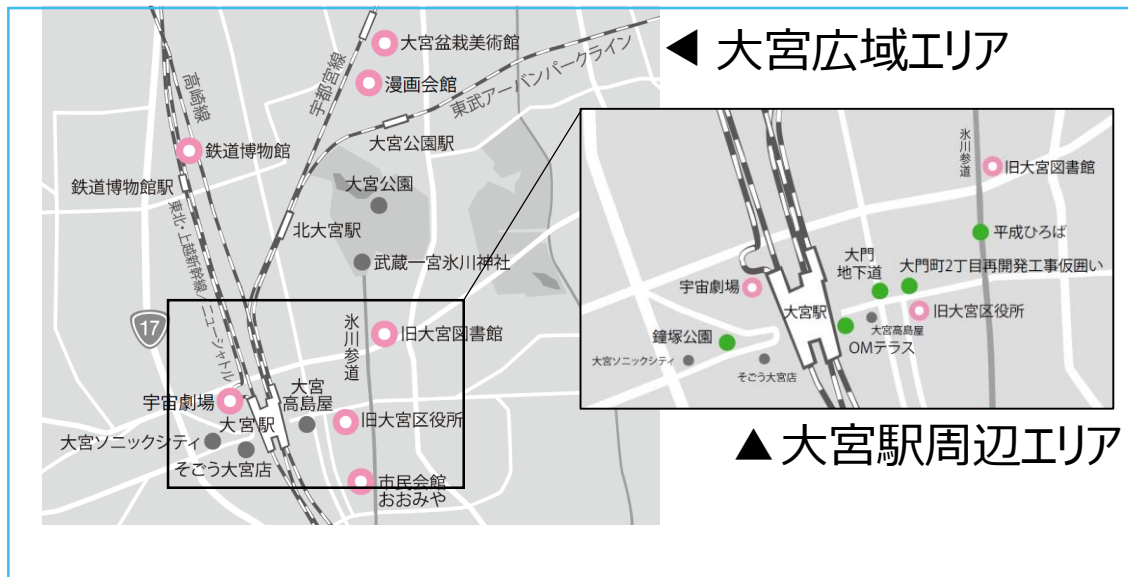
会期

2020年3月14日（土）～5月17日（日） [65日間]

令和元年9月19日市長定例記者会見

開催概要

会場



メイン・エリア (大宮エリア)

旧大宮区役所

大宮区大門町3-1

旧大宮図書館

大宮区高鼻町2-1-1

その他会場

大宮盆栽美術館・鉄道博物館・漫画会館ほか



先行プロジェクト

さいたまアートセンタープロジェクト

8月から隔週開催 アートを身近に感じるプログラムを実施中



さいたまスタディーズⅡ【サーキュレーションさいたま】

まちづくりに関係する団体等と連携し、さいたま“地域らしさ”を発掘



レガシープロジェクト

やじるしプロジェクト



市内小中学生が
アート作品を制作



選定コンセプト

- ① **さいたまに向き合い作品を制作するアーティストを選出**
- ② **テーマ「花」を多層的に伝えられるアーティストを選出**
- ③ **多分野で活躍するキュレーターがアーティストを選出**

参加アーティスト発表（第一弾）

インスタレーション

篠田 太郎（しのだ たろう）



篠田太郎《枯山水》2015、サイトスペシフィックインスタレーション、シャルジャビエンナーレ、Courtesy by Sharjah Art Foundation



宇宙を含む森羅万象を「人類の営みが共存するような進化する自然として理解する」ことをテーマに、未来を思考するプロセスとしての作品を展開

インスタレーション：場所や空間全体を作品として体験させる芸術

インスタレーション

アラン・カプロー / アメリカ (没年2006年)



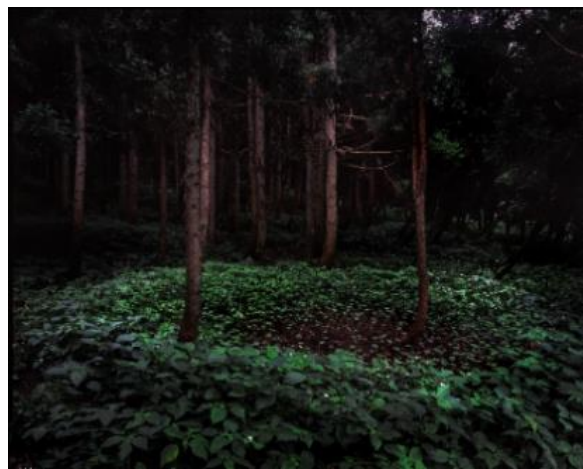
アラン・カプロー《Fluids》、1967—2009、Two Rodeo Drive、Los Angeles
Photo: Andrea Stang

観客や一般人を不意に巻き込む身体パフォーマンスや参加型イベント作品展示「ハプニング」の創始者及び命名者

フランク・ブラジガンド / フランス



川井 昭夫 (かわい あきお)



川井昭夫《PLANT CIRCLE “地より”》1995、杉林に芋麻、ドクダミ、富山県婦負郡八尾町



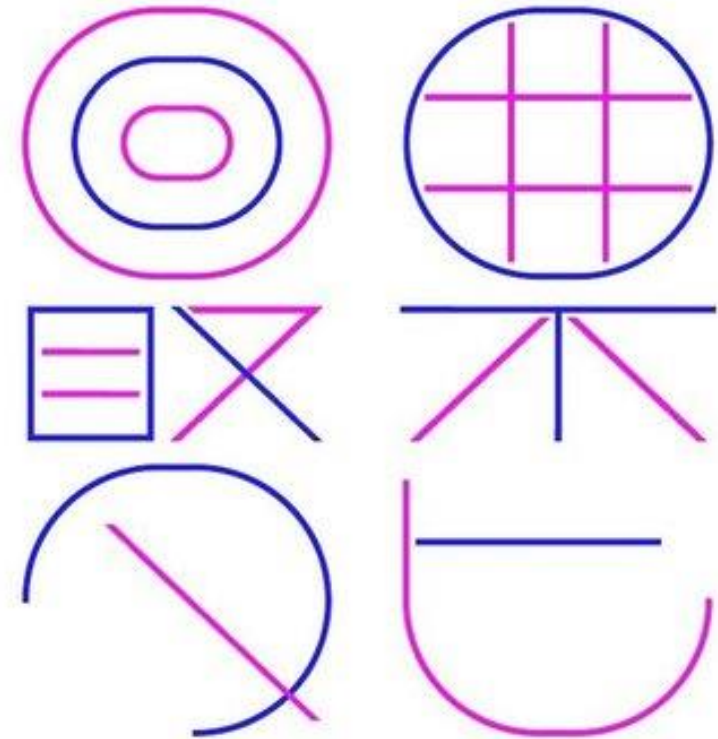
日常にあふれるモノやゴミから現代の社会を批評的に読み解き、「日常」を修復

テリ・ワイフェンバック / アメリカ



テリ・ワイフェンバック 《Untitled》 2015、写真集 "Des oiseaux Terri Weifenbach" より

最果 夕 (さいはて たひ)



言葉をツールに領域を横断していく表現活動を展開

菅原 直樹 / OiBokkeshi (すがわら なおき)



『よみにひはくれない』浦和バージョン「世界ゴールド祭2018」より 提供：(公財)埼玉県芸術文化振興財団



photo: Kazuki Kusaka

超高齢化社会の課題
を「演劇」というユニーク
な切り口でアプローチ

日本フィルハーモニー交響楽団



《クラシックなラジオ体操》2017、NPO法人インビジブル、撮影：加藤甫



《クラシックなラジオ体操》2017、NPO法人インビジブル、撮影：加藤甫

日本フィルハーモニー交響楽団が
奏でる朝に合わせたクラシック音
楽のコンサートからラジオ体操で
フィナーレを迎える参加型プロ
グラムの様子